

## 大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月30日（水）午後7時00分～8時25分  
場 所 学びの里「めいりん」 講堂  
出席者 有終西小学校区住民 19名  
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監  
教育総務課職員3名

顛 末

- ①教育長あいさつ
- ②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）
- ③質疑応答

参加者 資料1ページ目を見ると、平成16年4月に再編計画策定とあり、今から20年近く前からのグラフを見るとすごく寂しく感じる。子どもの数が減ったの学校の再編が、今の議題になっているのだと思う。大野市として、人数が減っているから再編という話は理解できるが、それと並行して、人口が減少していることに対する政策について教えてほしい。

市教委 平成元年前までは500人ぐらいの子どもが生まれ、自然増減では亡くなる方よりも生まれてくる方が多く、もう一つの社会増減では、転入する方よりも転出する方が多く、徐々に減少してきていた。最近自然減も多くなってきた。人口減少に至る要因はいくつかあるが、大きな要因としては、それぞれの価値観が変わってきたこと、また高学歴化してきたということにある。8割以上が大学進学などで県外に出てしまい、県外に出てしまうと、特に女性は県外で就職をし、大野に戻ってくるのが少ない状態である。最初に教育長から説明したように、ずっと子育て世帯を応援していくことで「大野に住んでよかった」「大野で子育てをしてよかった」という長期的な取り組みと同時に、移住施策や企業誘致といった様々な人口減少の対策を行っている。これといった特効薬は今のところはないが、あらゆる手を尽くしている。数値として人口置換水準があり、合計特殊出生率が2.07なければ人口は減りも増えもしないというものである。お子さんが2人では減り、3人はいないと増えず、そこを達成したとしても数十年は人口が減ると言われている。工業団地への企業誘致や中部縦貫自動車道の整備など、少しずつであってもいろいろな手を尽くして人口減少の対策を行っているところである。

参加者 中学校の部活動のことについて聞きたい。中学校で人数がいなくてできない部活動がある。統合されると開成中学校や陽明中学校ではできる部活がある場合、中学校に入学して3年生の時に統合した中学校でできる部活

が有るという状態が見えている場合、統合する中学校と同じような部活はできないか。

市教委 確かに、新たに自分がしたいと思う部活が統合前の学校には無く統合後の学校には有って、3年生からその部活に入っても2カ月ほどしかない、ということでは意味がないのではと思う。この部分は協議をしていく中で大事なところであると思う。実際に今の部活動は合同練習や合同チームでも行っている。これに関しては県中体連の決まりや縛りはあるが、大野市では今年の夏季大会でも、その縛りについて県中体連の事務局に許可を得て、やりたいと思う生徒を優先して、合同チームを作って今大会に臨んでいる。そのようなことも含めて、これからの再編を進めるに当たっては、例えば3年生でなく、そのような条件のもとで2年生から合同練習をして、合同のチームで出るといったことを教育委員会としても働き掛けていき、保護者の方の要望についてもしっかりと耳を傾けていきたいと思っている。

参加者 以前の再編計画の時には、耐久性が足りない校舎が多数あり、それを解消しなければいけないため、再編は絶対しなければいけないということでの説明であったと私は感じた。しかし今回は最後のページに経過年数や築年数などが記載されていて、西校はまだ新しいが30何年や50年近くたっている校舎もある。耐震はしっかりとしているが、何年持つかは分からないということを言われて、それであれば建てなければいけないのだな、と感じていた。今回、既存の校舎を使用するという案で、心配があつて踏み切れないが、どのように耐震をするのか聞きたい。

市教委 小学校中学校ともかなりの建築年数が経っている学校があり、確かに老朽化している学校が多くある。昨年度コンクリートの老朽化の状況について調査を実施し、ほとんどの校舎は、現時点では当面は大丈夫であるとの結果が出ている。改修等是一部必要となると思うが、児童生徒の安全に関わることについては、再編をする学校を中心に計画的に改修をしていく。今回の再編の中ではそのような形で、既存校舎を活用するという事としている。ただ、その後の再編ということになった場合は、さらに大規模な改修なども必要になってくる可能性があると思っている。

参加者 今回は大規模な改修は行わないということか。何年持つか分からない、それでよいのか。

市教委 一般的に鉄筋コンクリート等の耐用年数は60年程度と言われており、おおむねその年数までは大丈夫である。

参加者 乾側小学校は有終西小学校に統合されると思っていたが、下庄小学校に統合された。その理由は何か。

市教委 平成16年に再編計画が策定され、その時には、乾側小学校は有終西小

学校の分校に、小山小学校は有終南小学校の分校にという計画があったため、そのようなイメージをお持ちなのだと思う。そして、乾側地区の犬山の子どもたちは有終西小学校に通学してきているので、そういうイメージがあるのだと思う。ただ今回は、乾側小学校の児童をお持ちの保護者の方、未就学のお子さんをお持ちの保護者の方とも十分に相談をした中で、「どちらがいいか」ということになった時に、下庄小学校にという総意となったため、そのように進めさせていただいた。

参加者 地区の話が出たが、私は家が鍬掛にあり小山地区で唯一、有終西小学校に通っている。学校再編の中で、どうしてもその地区の行事となると、乾側地区の犬山も同じだと思うが、同じ学校ではない子どもたちと、一緒に競技する。中学では一緒になるが、何か矛盾というものをずっと子どもの時にも思っていた。今後の計画の中ではどのように考えているのか教えてほしい。

市教委 鍬掛は小山地区で、地区の運動会などの時にちょっと違和感があるということとは理解できる。過去に、学校への通学距離の関係でこのような形になったものと思っている。今回の計画案自体では段階的なことを考えていて、第二段階をするということをごここで明言することはできないが、可能性の問題としては次のことも考えていかなければいけないと思っている。そのような中で、今度は、大野市全体の校区の見直しも含めて検討する必要があるだろうということで、今の提案をさせていただいている。

参加者 再編で一番難しいのは、地区の皆さんの理解を得ることであると思う。長年の伝統ある学校が消えてしまう。これまでも少人数だから仕方がないということになっている。説明いただいたことは、検討委員会の時から思っていたが、論理的に詰めてきて何の文句もない理詰めができていていると思うが、地域の感情というものを無視した再編は、決して良いものではないと感じている。小山地区や阪谷地区の皆さんの理解を得ているのか。再編計画は検討委員会や教育委員会として決まったことだからという考え方はおかしい。地区に入って、地区の皆さんの理解を得ることが再編の大事なことであると思う。

市教委 そのとおりだと思っている。地区の理解を取っているのかという点は、まだである。ただ、地区の方やPTAの方に伺って日程を調整し、説明会に回ってきた。再編で動かなければならない小さい学校の保護者の関心は非常に高い。私たちも慎重に丁寧にということをご、この3年間ずっと胸に置いてやってきた。教育委員会が決めたら、検討委員会の案だからということ決定ということは考えていない。今のこの計画もみんなが頭を寄せ合って考えさせていただいた。そして、皆さんにご理解をいただけるよ

うにという思いで作ってきた。小さい学校の子どもたちや地域の皆さんの思いにはしっかりと心を寄せながら、丁寧に進めさせていただく。私たちがどんな経緯で検討してきたのかといえば、検討委員会でも意見が行ったり来たりしながら「和泉地区のことは別に考えよう」などのようにして、本当に心を持って進めてきたつもりである。その都度その都度、皆さんにお知らせしながら、心に留めながらやってきたと思っている。少しずつこうして形になってきたので、その辺の丁寧さは欠くことなくしっかりと対応させていただいたと思っている。

参加者 小山小学校や阪谷小学校地区では話は進めていて、上庄中学校や尚徳中学校地区の方への話はしないのか。地区の方には地区にある学校を大事にしたいという、本当に強い思いがある。地区の学校をなくすのは我慢できないと言われるかもしれない。理論的に教育的に言えば、少人数はだめで複式は解消するという理屈は分かっている。今の保護者たちは、教育の大切さの中で、複式はだめだというような理解はしていると思うが、そういう意味でも、このように地区ごとに説明会をしても非常に難しいのではないかなと私は思う。小山地区へ行って話をするのか。

市教委 小山地区だけが希望が7月になっているため、これからになるが、その他の地区にも全部説明させていただいた。地区対象では地区の方に、保護者対象では保護者の方に、未就学の小さいお子さんをお持ちの保護者対象ではその保護者の方という形で、それぞれ丁寧に話し合いをさせていただいた。

参加者 令和8年に大野市全ての学校を2校にするという案がある。昨日の全国ニュースでも飲酒運転で小学生の列に突っ込むという事件があり、保護者からすると、行き帰りの通学が心配であると思う。低学年だけでも分校というような形にならないのか。そうすると保護者は通学に安心が持てると思う。スクールバスを出すといっても、地区の方では若い夫婦が住まなくなり、一層過疎化が進むと心配している人もいます。保護者が安心して登下校できる状況を、知恵を絞ってつくらないといけないと思う。

市教委 本日の説明では、令和8年度に小学校を7校にするという案をお示ししている。資料の4ページで、有終南小学校と小山小学校、富田小学校と阪谷小学校を統合するということで、令和8年度では7校が残るという計画案になっている。中学校を1校に小学校を2校にという計画を今回見直した計画案となっている。

参加者 いろいろなことを皆さんは心配すると思うが、1番心配しなければいけないこととしてお願いしたいのは、令和8年度に再編される予定の学校、例えば小山小学校や阪谷小学校の在校生や未就学の子どもたちのことをまず

考えてあげてほしいと思う。地域の大人の方の考え方はいろいろあると思うが、やはり子どもの目線に立って、6年生は中学校に上がるので良いと思うが、入ってくる新しい1年生の子どもたちと、残る5年生以下の子どもたち、特に小山小学校と阪谷小学校の子どもたちにヒアリングしてほしいと思う。あとは保護者の気持ち、保育園などの小さい子どもの保護者もどうしてほしいかなどの思いを積み上げてもらいたいということ、念を押したい。実際自分の子どもが乾側小学校にいて、平成29年度ぐらいから話を聞いて、今年には再編されることを知っていたが、小学校は有終西小学校に入れさせようと思い、乾側小学校には入学しなかった。正直、小規模な学校が悪いとは言わないが、ある程度クラスに人数がいないと、子どもたちも社会に対応していけないのではという私の考え方があり、そのようにした。実際に小山小学校と阪谷小学校の子どもさんをお持ちの保護者には、事細かく話を聞いてほしいと思う。交通事故のことも新聞に出ていて、そういうことも皆さん心配なのだと思うが、再編するということは今から避けては通れない道で、もう仕方がないなと思う。再編するに当たっては、子どもたちにとって1番良い環境で1番良い教育を受けられるようになったら良いと思う。目線を子どもたちに合わせて、一人一人の話を聞いてあげてほしいと思う。

市教委

先ほど申し上げたように、地区の方にも丁寧に説明させていただく。それと同じように保護者の方、未就学の方にも別々にお話をさせていただいた。地区を思う気持ちは一緒だが子どものことを思う、というところでは若干の考えの違いはあると思う。私たちも小学校の頃はなるべく親元の地域でと思う。それが基本であるが、子どもの数がずっと減ってきて、あまりにも人数が少ないのではどうだろうか、どこかでは大人が判断しなければいけないという考えである。そして、先ほどの発言は乾側小学校の経験があるから重い。しっかり対応させていただく。そして大野地区の中でこのようなお話が出たことはとてもありがたく思っている。有終南小学校や有終東小学校での説明会でもそうであった。やはり来てくれる、動かなければいけない小さい学校の子どものさんや保護者さんにしっかり心を寄せてほしい、そのことをしっかり考えてほしいと、そのように言っていた、本当にありがたく思った。有終南小学校では、小山小学校の児童が来ることによって、今までの有終南小学校の伝統もあるが、小山小学校の特徴などもしっかりと引き継いで、新しい有終南小学校を考えていくチャンスだと言っていた。

参加者

今回の再編をして、また5年後には何かを考えなければという主旨の説明があったが、5年でまた変えなければいけないような再編を、なぜする

のか。それならば今一緒にやっしまえばとも思うが、5年後にそのような計画ということの原因は何であるのか。

市教委

令和8年に小学校が落ちつき、そして、その5年後の令和13年あたりから、今の状況が本当に良いのかどうか、子どもの数はどうか、ICTの進化などについてもしっかり考えながら、進めていかなければいけないと思っている。今、5年後にすぐやるという話ではなく、10年や15年ぐらいのスパンがあると思っている。私は慎重に、丁寧に、着実にと言っているが、これは再編のことだけでなく、自分が何かの取り組みをするときの基本姿勢を言っているものである。やはり着実に進める必要があるということである。ここ3年間は十分に準備をしてきたので、その辺りをご理解いただきたい。もっと早くしてほしいという方もいる。そのようなことも総合的に考えて進めなければいけない。そう考えたときに、何をやらなければいけないのかということが、小学校の複式学級の解消と中学校の専門教科を全員に受けさせるという観点でしっかりとやるということである。まずそこを納めさせていただき、そして、次のことを考える、というスケジュールで行っている。これを今一緒に一度に行うとなると、難しいこともあると思う。AかBを選ばなければいけないようなことになれば、ずっとその解消ができない可能性がある。そのような二律背反の罫にはまらないように、段階的にやっていくという手法をとったということである。

参加者

学校再編を1校や2校にするという案を、今の市長は見直すとしたが、検討委員会の中では、1校2校というとらえ方をしている検討委員もいた。大野の子どもたちの教育のことを考えることは、検討委員会でも中途半端に終わっていた気がする。今後5年後に考えて10年後にはまた学校を再編するのだということはどうなのかと思う。

市教委

この後の再編がもしあるとしたら10年15年後ということになるだろうと思っている。この案以上に、市民の皆さんにご納得いただける案があるのであれば、我々もしっかりお聞きしたいと思う。ただ、この3年間で考えて積み上げてきた案を今日ご提案している。皆さんのいろいろご心配なところや不備な点、通学路のことをもっと考えてほしいというところについても、しっかりと聞いていきたいと思っている。

参加者

今、オンラインでの授業をやっていると思う。勝山市は新聞にも掲載されていた。オンラインで授業をすると和泉地区は再編しなくても、体育や音楽だけはスクールバスで行きみんな授業をして、普段はオンラインですれば複式は解消される。オンラインの充実を文部科学省がやろうとしていて、そこがしっかりすれば学校再編とは何かということが分からなくなってくると思う。

市教委            大野市でも小山小学校と阪谷小学校をオンラインで結んで授業を行っており、胸をはってさまざまな施策を進めていると申し上げたい。このようなことも5年10年と急速に変わっていくため、今の感覚で15年後20年後の状況を予想することは逆に怖いと思っている。この間の状況をしっかりと見て、もし可能性があって次に再編を行うとすれば、これは大野市の最終形に近い形になると思っている。その部分をしっかりと見ながら慎重に丁寧に、きちんと取り組ませていただく。

参加者            今後、このような説明会はどのように考えているのか。小山で最後であると思うが、地区や住民、保護者などへの今後の説明はどのように考えているのか教えてほしい。

市教委            説明会については資料の1番最後のページに記載のとおりで1通りの説明はさせていただき終了としている。それ以外に希望があればそれに応じてご説明をさせていただきたいと考えている。あとは、検討委員会なども開催させていただき、そこで皆さま方からのご意見などもご報告させていただく。また、この計画案のパブリックコメントを行い、住民の皆さまからもご意見をいただき、最終的には再編計画案の「案」をとらせていただくということで、今年度は予定している。

#### ④閉会のあいさつ（事務局長）